



順天堂大学医学部附属順天堂医院

診療科紹介

内科系診療科

- ◆ 総合診療科
- ◆ 循環器内科
- ◆ 消化器内科
- ◆ 呼吸器内科
- ◆ 腎・高血圧内科
- ◆ 膠原病・リウマチ内科
- ◆ 血液内科
- ◆ 糖尿病・内分泌内科
- ◆ 腫瘍内科
- ◆ メンタルクリニック
- ◆ 脳神経内科
- ◆ 小児科・思春期科

外科系診療科

- ◆ 小児外科
 - ・小児泌尿生殖器外科
- ◆ 消化器・低侵襲外科
(現食道・胃外科)
- ◆ 食道・胃外科
- ◆ 大腸・肛門外科
- ◆ 肝・胆・膵外科
- ◆ 乳腺科
- ◆ 心臓血管外科
- ◆ 呼吸器外科
- ◆ 脳神経外科
- ◆ 整形外科・スポーツ診療科
- ◆ 形成外科

その他の診療科

- ◆ 皮膚科
- ◆ 泌尿器科
- ◆ 眼科
- ◆ 耳鼻咽喉・頭頸科
- ◆ 放射線科
- ◆ 産科
- ◆ 婦人科
- ◆ 麻酔科・ペインクリニック
- ◆ リハビリテーション科
- ◆ 救急科
- ◆ 歯科口腔外科



主な疾病/治療対象

- ◆ 不明熱、体重減少、倦怠感等の各種疾患
- ◆ 肺炎、尿路感染症、HIV、梅毒などの感染症
- ◆ 未確定診断の多臓器疾患を持つ患者の入院診療
- ◆ 救急プライマリセンターでの初診・夜間休日診療
- ◆ 生活習慣病(コレステロールや尿酸値の異常)
- ◆ 人間ドック(外来・入院ドック、PETドック)など



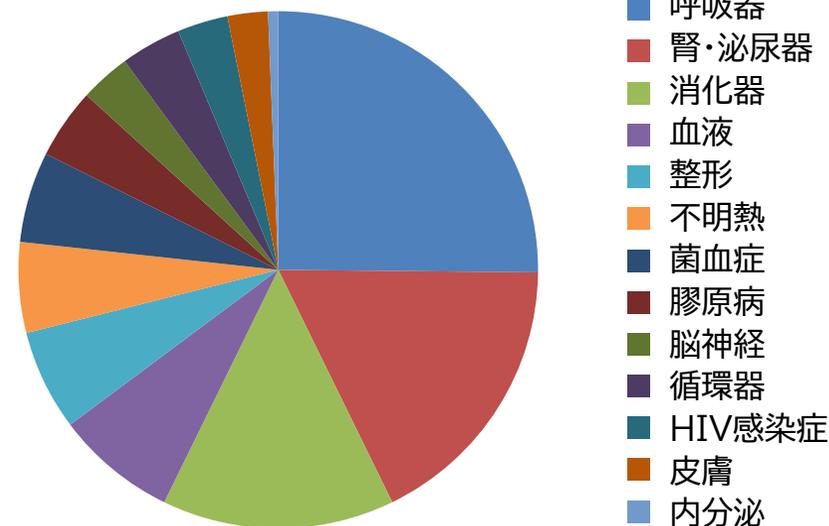
毎週行われている
症例検討会



人間ドック結果説明

診療科の特徴

- ◆ 特殊外来であるワクチン外来、便秘外来など
- ◆ EBMを実践した予防医療・心から相談出来る主治医機能「ヘルスリテラシーを高める人間ドック」
- ◆ 順天堂医院内の感染症マニュアルの制作、院内全科に対し行う抗菌薬コンサルテーション



2019年入院患者 疾患別症例数割合

主な疾病/治療対象

- ◆ 冠動脈疾患、閉塞性動脈硬化症
- ◆ 心臓弁膜症、先天性心疾患
- ◆ 不整脈
- ◆ 心筋症、心不全
- ◆ 肺高血圧症
- ◆ 睡眠時無呼吸症候群
- ◆ 脂質異常症

診療科の特徴

- ◆ 年間約400件の経皮的冠動脈インターベンション(PCI)に加え約100件の経カテーテル的大動脈弁植込み術(TAVI)を施行
- ◆ 不整脈治療においては、年間250件を超えるカテーテルアブレーションを施行
- ◆ 都内有数の心臓リハビリテーションを順天堂医院ハートセンターにて実施し(2020年の総症例数は13000件を超える)学会認定優良プログラム施設認定を受けている
- ◆ 最先端の画像診断を診断・治療に積極的に活用



2020年検査・手術件数

カテーテル治療	総PCI総件数(患者単位)	392件
	PTA件数(患者単位)	107件
	TAVI(経カテーテル的大動脈弁植込み術)	100件
	BPA(経皮的バルーン肺動脈形成術)	19件
	経皮的僧帽弁接合不全修復術	11件
	PTSMA(経皮的中隔心筋焼灼術)件数	3件
	経皮的閉鎖術(ASD, PDA, PFO)件数	18件
不整脈治療	ペースメーカー植え込み件数	133件
	ICD植え込み件数	16件
	カテーテルアブレーション件数	259件
	心臓再同期療法(CRT)件数(植込み型除細動器付含む)	26件
心リハ数	心大血管疾患リハビリテーション新規患者数	1,162件
心エコー検査	経胸壁心エコー件数	15,880件
	冠動脈CT件数	792件
MRI	心臓MRI件数	257件
核医学検査	心筋血流シンチ件数	549件

主な疾病/治療対象

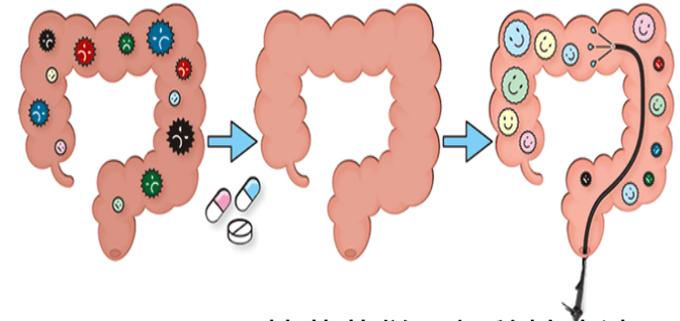
- ◆ 食道がん、胃がん、大腸がん
- ◆ 炎症性疾患、機能性胃腸症
- ◆ 肝がん
- ◆ 膵がん、胆道がん
- ◆ ウイルス性肝炎、アルコール性・非アルコール性肝障害、自己免疫性肝炎

診療科の特徴

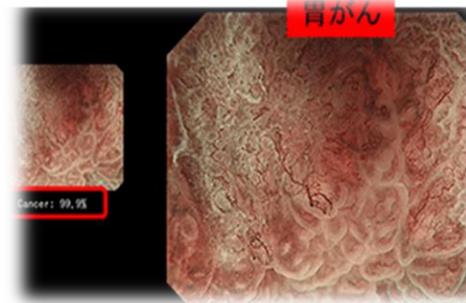
- ◆ 胃底腺型胃がんの経験症例数世界No.1
- ◆ カプセル内視鏡の施行件数日本国内トップクラス
- ◆ 胆管ステント、十二指腸・大腸ステントの治療技術は世界トップレベル
- ◆ ラジオ波治療(RFA)・新世代マイクロ波治療(MWA)において、7年連続国内最多症例数
- ◆ AI胃がん内視鏡診断支援システムの開発
- ◆ 潰瘍性大腸炎に対し、便移植法による治療研究



①乱れた腸内細菌叢 ②3つの抗菌薬で腸内をリセット ③内視鏡による便移植



抗菌薬併用便移植療法の概念図



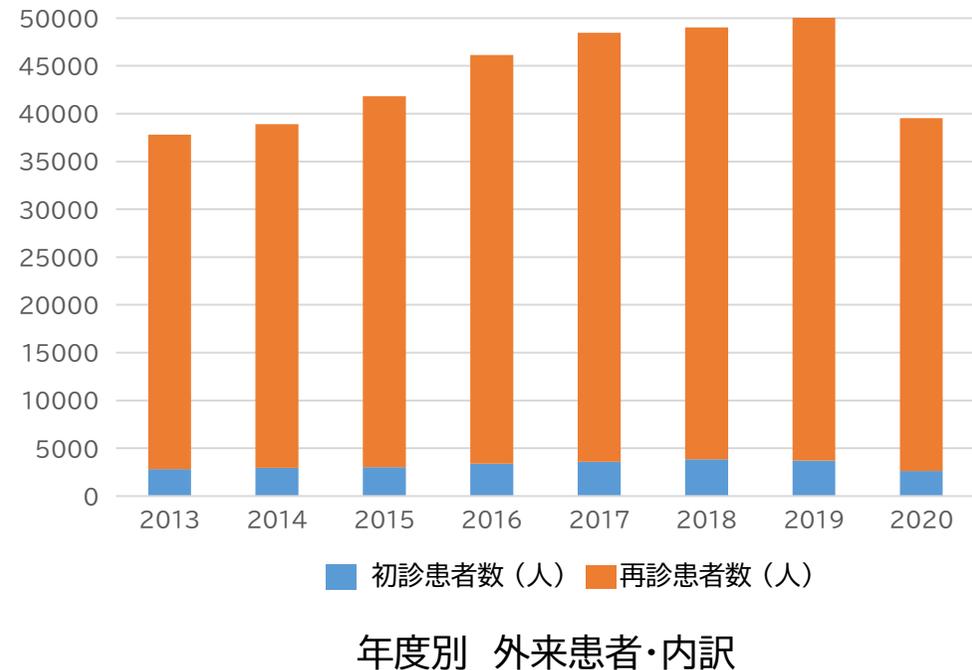
AI胃がん内視鏡診断支援システム

主な疾病/治療対象

- ◆ 肺がん・胸部悪性腫瘍
- ◆ 気管支喘息
- ◆ 慢性閉塞性肺疾患(COPD)
- ◆ 間質性肺疾患
- ◆ 呼吸器感染症
- ◆ 希少肺疾患(リンパ脈管筋腫症、肺動脈性肺高血圧症など)
- ◆ 睡眠時無呼吸症候群(SAS)など

診療科の特徴

- ◆ 1969年に開設された日本で最も古い歴史を有する呼吸器内科専門講座である
- ◆ 本邦大学病院で随一の外来・入院患者数を誇る
- ◆ 肺がんに対する化学療法を得意とし、治験・臨床試験を含めて最善の治療を提供
- ◆ 喘息・COPD・間質性肺炎に対し、最新の治療法をいち早く導入
- ◆ 希少肺疾患・SASについてもエキスパートが診療にあたる



主な疾病/治療対象

- ◆ 高血圧症、血尿、蛋白尿など
- ◆ 糸球体腎炎、間質性腎炎
- ◆ ネフローゼ症候群
- ◆ 急性腎障害(AKI)・慢性腎臓病(CKD)、糖尿病性腎臓病(DKD)
- ◆ 血液・腹膜透析合併症



診療科の特徴

- ◆ CKDの全てのステージに対応し、原疾患の治療、CKDの進行抑制、合併症予防を包括的に治療
- ◆ 持続血液濾過透析(CHDF)を必要とする病態に対し、各診療科から依頼を受け、全身状態の改善に寄与
- ◆ 急性・慢性腎炎、ネフローゼ症候群、全身疾患に伴う腎障害の原因を同定するために腎生検を積極的に施行

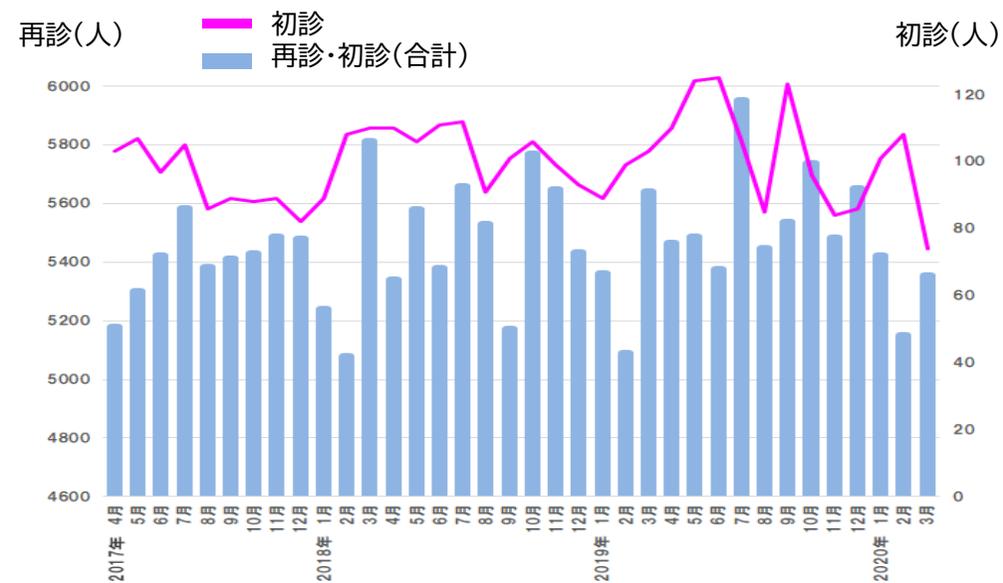
	外来延べ患者数	初診患者数 (うち紹介状持参患者数)
2013年度	40,947	786(446)
2014年度	39,820	740(426)
2015年度	41,859	606(434)
2016年度	45,146	576(401)
2017年度	46,252	568(424)
2018年度	46,346	617(488)
2019年度	45,995	584(460)

主な疾病/治療対象

- ◆ 膠原病全般を幅広く診療
- ◆ 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、筋炎、血管炎、脊椎関節炎、シェーグレン症候群の疾患別専門外来がある

診療科の特徴

- ◆ 日本で初めて開設された膠原病専門講座である
- ◆ 様々なリウマチ性疾患の症例数が非常に多く、豊富な診療経験を有している
- ◆ 生物学的製剤を始めとする分子標的治療薬やアフェシス療法などを取り入れ、最新の知見に基づいた適切な外来および入院診療を行っている



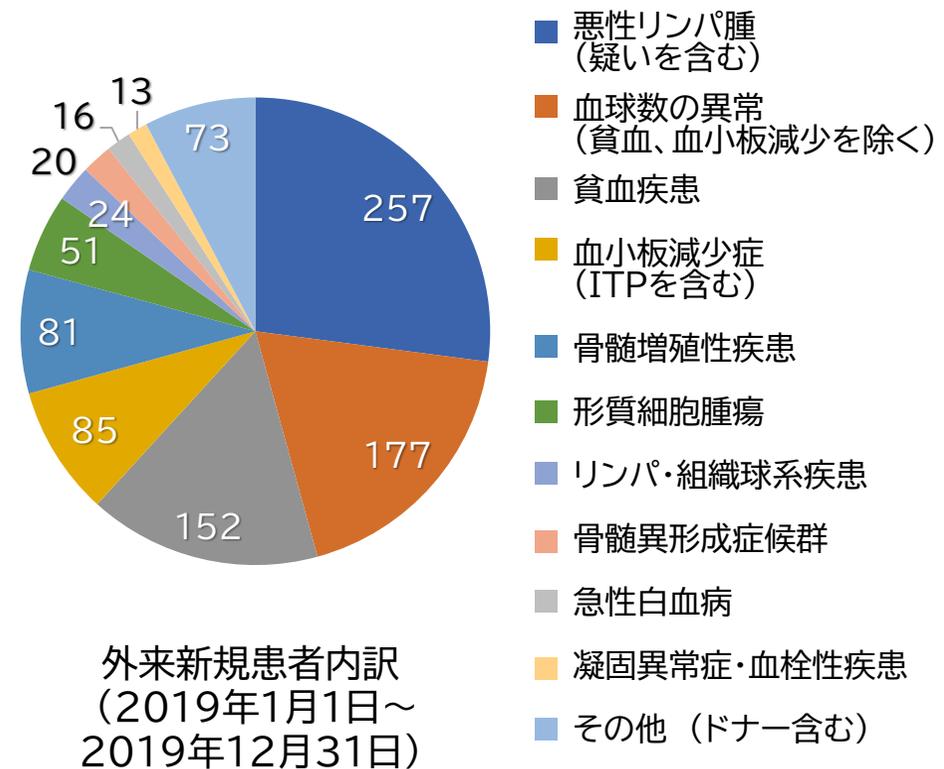
外来実績

主な疾病/治療対象

- ◆ 急性・慢性白血病(骨髄性・リンパ性)
- ◆ 悪性リンパ腫、多発性骨髄腫
- ◆ 真性多血症、本態性血小板血症
- ◆ 骨髄線維症
- ◆ 特発性血小板減少性紫斑病など

診療科の特徴

- ◆ 以下の基礎研究の成果により、最先端の治療を行うことが可能
 - 骨髄増殖性腫瘍発症のメカニズムの解明
 - 血液疾患に対する遺伝子診断技術の開発と応用
 - 造血器腫瘍における転写因子の機能解明
 - iPS細胞由来T細胞を使った免疫細胞療法の開発
- ◆ 難治性の急性リンパ性白血病と悪性リンパ腫に対し、CAR-T療法の提供施設に認定

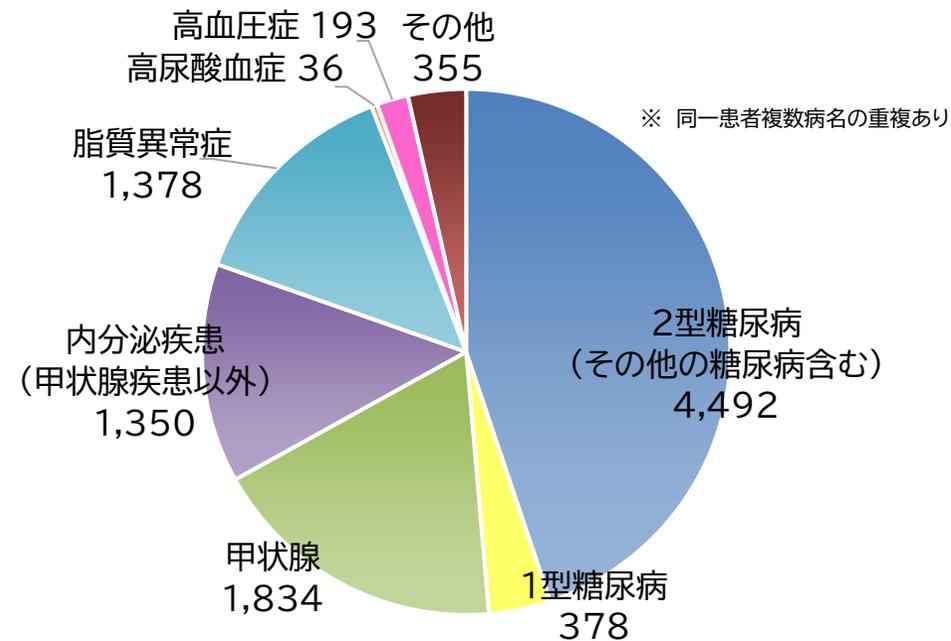


主な疾病/治療対象

- ◆ 糖尿病
- ◆ 高脂血症、高尿酸血症
- ◆ 代謝性疾患
- ◆ 甲状腺疾患(バセドウ病など)、副甲状腺疾患
- ◆ 下垂体疾患(クッシング病など)、副腎疾患(原発性アルドステロン症など)

診療科の特徴

- ◆ 糖尿病教育入院は通常1週間、疾患知識・食事と運動の方法を習得し、インスリン分泌能や合併症を検査し、治療計画を立案
- ◆ 1型糖尿病に対してSAP (Sensor Augmented Pump)療法を導入
- ◆ 甲状腺腫瘍に対する吸引細胞診症例数は日本トップクラス
- ◆ 原発性アルドステロン症に対して、放射線科と連携しカテーター検査にて治療方針を決定



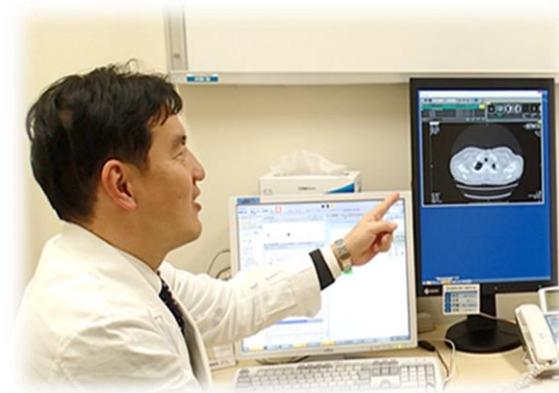
2019年度 主病名別・外来患者数

主な疾病/治療対象

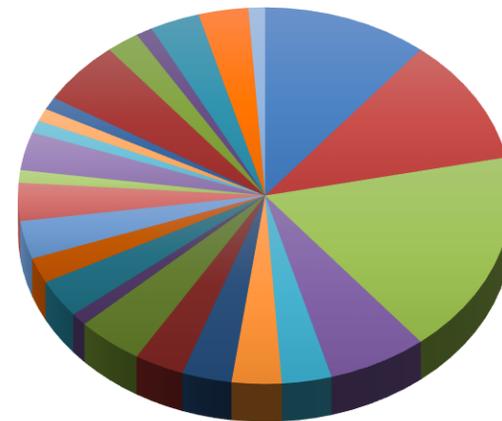
- ◆ 薬物療法が適応となる固形がん
(骨・軟部腫瘍、神経内分泌腫瘍、消化管間質性腫瘍、消化器がん、肝胆膵がん、原発不明がん、など)

診療科の特徴

- ◆ 薬物療法の専門科として、カンサーボードなどの機会を通じ、他の診療科と協調して集学的な治療方針を検討、実施
- ◆ 治療方針の検討に当たり個々の患者さんの腫瘍細胞のがん関連遺伝子の変異プロファイルを調べるがん遺伝子パネル検査(保険診療、自由診療)を行い、がん医療における Precision Medicineの実践を行っている



外来診察



2019年 患者 疾患別割合

- 骨肉腫・軟部腫瘍
- 原発不明がん
- 大腸がん
- 胃がん
- 胚細胞腫瘍
- 良性疾患
- 肺がん
- 食道がん
- 膵がん
- 胆のうがん
- 胆管がん
- 肝がん
- 前立腺がん
- 頭頸部がん
- 悪性黒色腫
- 卵巣がん
- 子宮頸がん
- 脳腫瘍
- 小腸がん
- 乳がん
- 心臓腫瘍
- 副腎がん
- 腎がん
- 膀胱がん
- 悪性リンパ腫



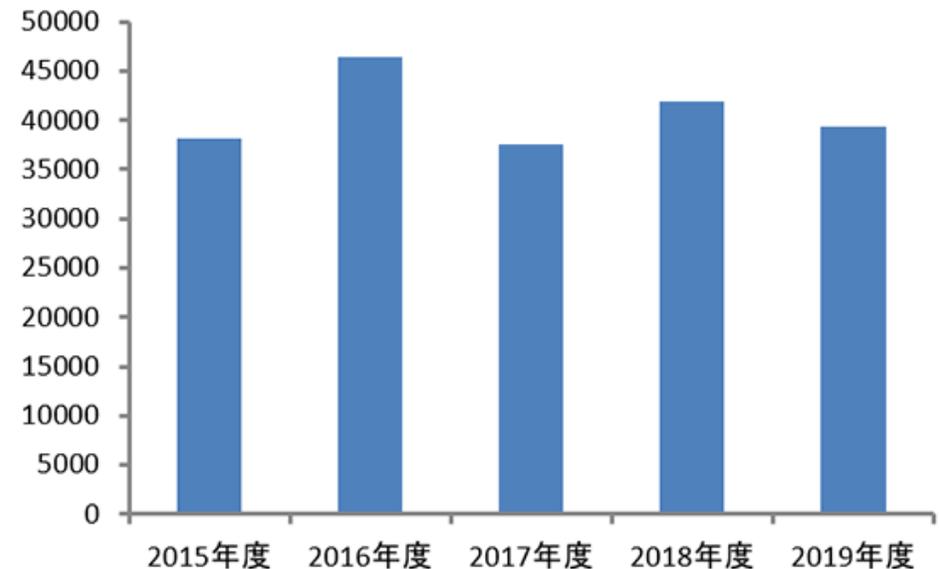
カンサーボード

主な疾病/治療対象

- ◆ 器質性精神障害
- ◆ 気分(感情)障害、身体表現性障害
- ◆ 神経症性障害、ストレス関連障害
- ◆ 統合失調症、妄想性障害
- ◆ 心理的発達障害など

診療科の特徴

- ◆ 順天堂医院6附属病院にてそれぞれのメンタルクリニックが機能分化しながら結合し、全人的な精神医療を実施
- ◆ 都内の大学病院で初めて東京都精神科患者身体合併症医療事業の担当病院に指定
- ◆ 脳神経内科と連携し、パーキンソン病などの神経変性疾患に伴う気分症状の診断・治療に注力
- ◆ 気分障害専門外来を設立。うつ病・双極性障害等の気分障害の治療にも注力



年別外来再来患者数(過去5年、単位:人)

主な疾病/治療対象

- ◆ 変性疾患: パーキンソン病、認知症など
- ◆ 脳血管疾患: アテローム血栓性脳梗塞など
- ◆ 神経免疫疾患・筋疾患: 重症筋無力症、筋ジストロフィーなど
- ◆ 機能性疾患: てんかん、頭痛など
- ◆ 末梢神経障害: ギランバレー症候群、CIDPなど
- ◆ 神経感染症: 髄膜炎・脳炎など



診療科の特徴

- ◆ Newsweek誌が選出する'21年World's Best Hospitals Neurology部門世界10位(日本1位)
- ◆ パーキンソン病診療実績は日本最大規模、基礎研究・臨床研究共に卓越した業績を有する
- ◆ パーキンソン病のデバイス補助療法(脳深部刺激療法、レボドパ・カルビドパ経腸持続注入療法)治療患者数は日本最大
- ◆ 脳梗塞急性期に対し静注血栓溶解療法やカテーテルによる血栓回収療法を実施



	2019年(人)
外来患者総数	82,815
初診患者数	2,870
再診患者数	79,945
救急患者数	946

主な疾病/治療対象(グループ)

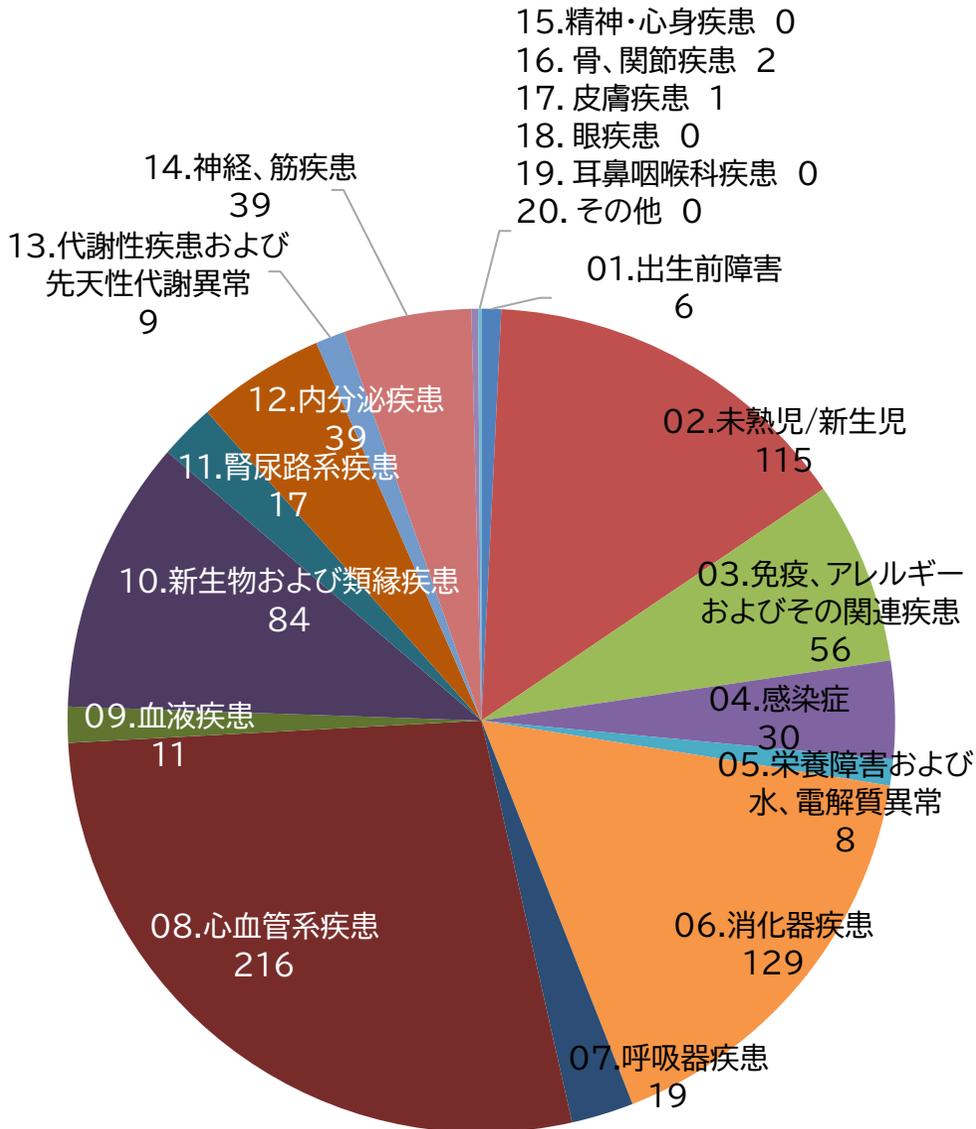
- ◆ 腹痛、下痢、便秘などの消化器疾患(消化管G)
- ◆ 未熟児・新生児疾患(新生児G)
- ◆ 先天性心疾患、不整脈、川崎病など循環器疾患(循環器G)
- ◆ 糖尿病など内分泌・代謝疾患(内分泌G)
- ◆ 感染症、呼吸器疾患(感染症G)
- ◆ 腎・泌尿器疾患(腎臓G)
- ◆ 白血病など血液・悪性腫瘍(血液・腫瘍G)
- ◆ てんかんなど神経疾患(神経G)
- ◆ 肝臓・代謝疾患(肝臓・代謝G)
- ◆ 喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、膠原病(免疫・アレルギー・膠原病G)
- ◆ 発達障害、児童精神疾患など(発達G)



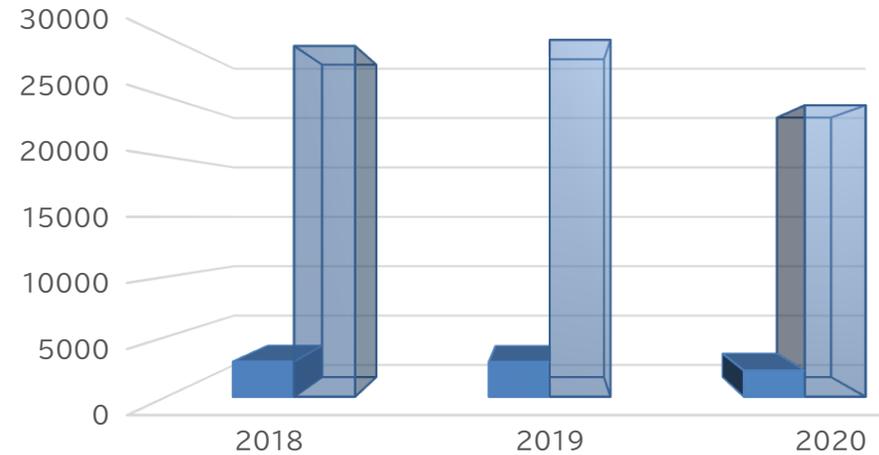
診療科の特徴

- ◆ 小児医療センターおよび周産期センターを開設し、あらゆる新生児および小児の疾患に対応
- ◆ 炎症性腸疾患、過敏性腸症候群、消化性潰瘍、難治性下痢症、痔疾患など小児消化器疾患の診療はわが国でもトップクラス
- ◆ 先天性心疾患は心臓血管外科医とともに全てに対応し、カテーテル治療、不整脈治療(カテーテルアブレーション)や川崎病冠動脈病変にも十分に対応
- ◆ インタクトサバイバルを目指して早産児の栄養管理に重点を置き、生後早期より経腸栄養と経静脈栄養を併用
- ◆ 糖尿病、低身長など内分泌・代謝疾患も専門医が対応
- ◆ 開設が少ない発達専門外来での発達フォロー実施

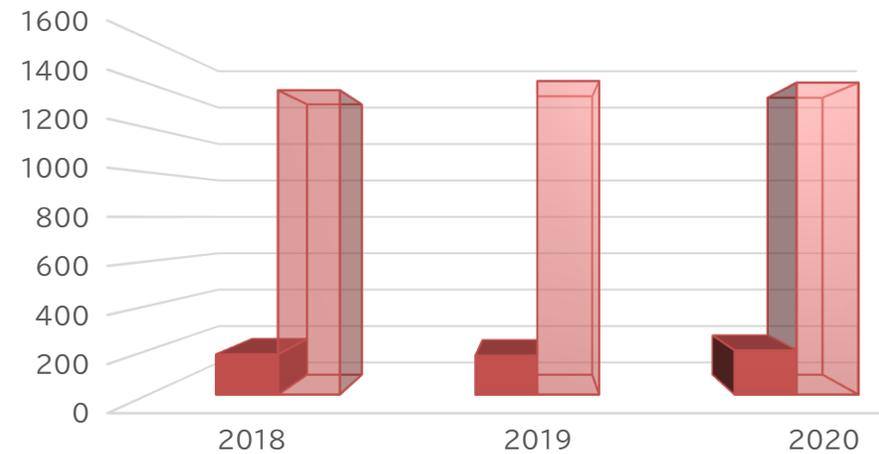
小児科・思春期科(2)



疾患別統計(入院)



■ 外来患者数の推移(初診患者数) (人/年)
■ 外来患者数の推移(患者総数) (人/年)



■ 入院患者数の推移(未熟児新生児) (人/年)
■ 入院患者数の推移(患者総数) (人/年)

小児外科・小児泌尿生殖器外科

主な疾病/治療対象

- ◆ ロボット支援下手術
胆道拡張症、腎盂尿管移行部狭窄症、縦隔腫瘍
- ◆ 胸腔鏡下手術
食道閉鎖症、嚢胞性肺疾患(先天性肺気道奇形、肺分画症)
- ◆ 腹腔鏡下手術
胆道閉鎖症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、鼠径ヘルニア
- ◆ 一般小児手術
鼠径ヘルニア、臍ヘルニア、停留精巣
- ◆ 新生児手術(胎児診断含む)
- ◆ 小児泌尿生殖器手術
重複腎盂尿管、水腎症、神経因性膀胱、尿道下裂、埋没陰茎
- ◆ 腫瘍手術
神経芽腫、腎芽腫、横紋筋肉腫

診療科の特徴

- ◆ 高度な教育と臨床実習を経験した専門医(小児外科及び小児泌尿生殖器外科)が在籍しており、チームワークと技術革新を通じて、常にチャレンジを続ける
- ◆ 高い専門性と患者への思いやりで、すべての患者に最善の医療を提供する
- ◆ 年間手術件数は約1,000件

「この子が自分の子供なら…」という気持ちで取り組む



ロボット支援下腎盂形成術(ダヴィンチ)



ホームページ

当科のロボット支援下手術(ダヴィンチ)について:

<https://www.juntendo.ac.jp/hospital/clinic/shonigeka/about/operation/>
<https://www.youtube.com/watch?v=Oq0vPixYBJs>

主な疾病/治療対象

- ◆ 胃がん
- ◆ 胃粘膜下腫瘍
- ◆ 食道裂孔ヘルニア・食道アカラシア
- ◆ 鼠経ヘルニア・腹壁癒痕ヘルニアなど



診療科の特徴

- ◆ 胃の早期・進行がんに対して「根治性」と「安全性」を重視した低侵襲腹腔鏡治療
- ◆ 日本で初めて消化管腫瘍の内視鏡下全層切除+腹腔鏡下閉鎖術を導入
- ◆ 腹腔鏡下胃切除を1700件以上経験し、日本の胃がん治療（腹腔鏡下胃切除術）をリードしてきた
- ◆ 胃癌に対する腹腔鏡下「左側アプローチ法」「膈上縁リンパ節郭清術」など新しい術式の開発に関与

主要手術件数(2019年1月1日～2019年12月31日)

食道切除	4例	(全例胸腔鏡・縦隔鏡)
胃切除	89例	(ロボット支援下11例 開腹1例)
結腸・直腸切除	15例	(開腹1例)
胆石/胆嚢炎手術	43例	(全例腹腔鏡)
鼠径ヘルニア手術	40例	(切開法3例)
虫垂切除	63例	(全例腹腔鏡)
その他手術	32例	

主な疾病/治療対象

- ◆ 食道がん
- ◆ 胃がん、胃悪性リンパ腫
- ◆ 食道粘膜下腫瘍、食道裂孔ヘルニアなど

診療科の特徴

- ◆ 食道がん手術症例数は国内トップクラスであり、質の高いリンパ節郭清を行い国内最高レベルの生存率を達成
- ◆ 食道がんに対し、主に胸腔鏡・腹腔鏡下手術など、より体に負担の少ない術式を行っている
- ◆ 内視鏡的治療、術前化学療法から手術、術後の補助療法や定期検査まで自科で行うことで、一貫性のある治療を提供
- ◆ 胃がんに対して、腹腔鏡下手術、開腹手術を多数行っている
- ◆ 食道・胃の良性疾患(粘膜下腫瘍など)に対しては、内視鏡的治療、鏡視下手術などを組み合わせ、より低侵襲な治療法を提案している



2019年診療実績

手術総数:174件
内視鏡治療:131件

食道癌	食道切除術	65例 (うち胸腔鏡下手術48例)
	内視鏡的粘膜切開剥離術	56例
胃癌	幽門側胃切除術	37例 (うち腹腔鏡下手術10例)
	胃全摘	8例
	噴門側胃切除術	2例
	内視鏡的粘膜切開剥離術	50例
咽頭癌	内視鏡的粘膜切開剥離術	25例
その他	腸閉塞など	37例

主な疾病/治療対象

- ◆ 大腸がん
- ◆ 大腸腺腫
- ◆ 炎症性腸疾患
- ◆ 肛門疾患
- ◆ ヘルニア疾患など



診療科の特徴

- ◆ 大腸がんに対し、機能温存手術を目指し、肛門機能を温存するISR(括約筋間直腸切除術)や超低位前方切除術も施行
- ◆ 難易度の高い大腸の内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)を積極的に行い、穿孔等の偶発症で緊急手術に至った例はなし
- ◆ 虫垂炎を中心に積極的に単孔式(TANKO)手術、reduced port surgeryを取り入れている
- ◆ ロボット支援下大腸手術も2015年から開始し、着実に症例数を増やしている



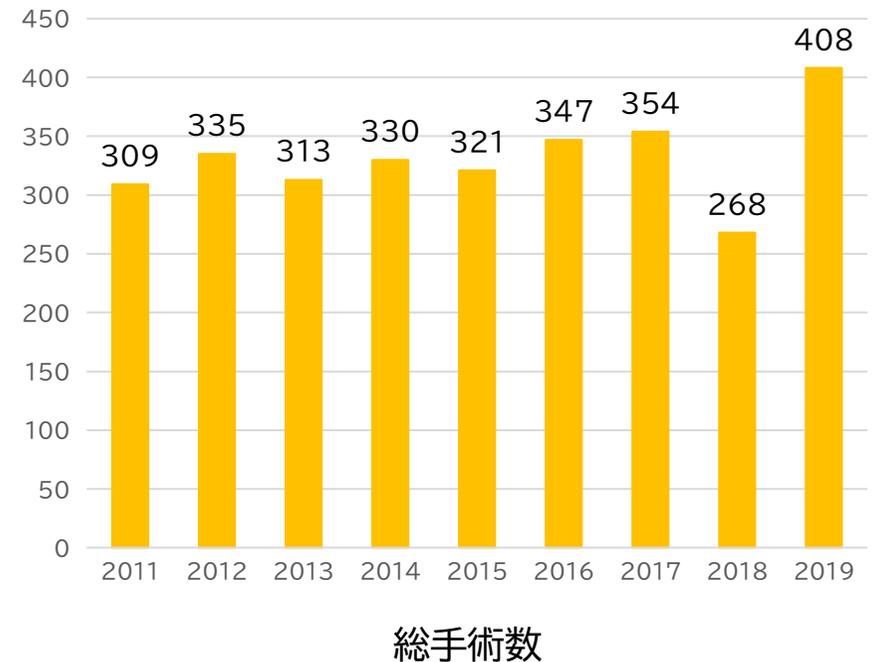
大腸癌治療症例数

主な疾病/治療対象

- ◆ 肝がん、胆管がん、胆嚢がん、膵がん、転移性肝がん
- ◆ 門脈圧亢進症
- ◆ 胆嚢炎、胆石症、総胆管結石
- ◆ 膵内分泌腫瘍
- ◆ 脾腫、脾嚢胞など

診療科の特徴

- ◆ 生体肝移植のレシピエントの1・2年生存率98%
- ◆ 切除不能となった進行がん症例も集学的治療と血管合併切除などで治療
- ◆ ロボット支援下膵切除術を導入
- ◆ 大腸肛門外科、消化器内科とカンファレンスを週一回行い、外科横断的な連携を図っている
- ◆ 広範囲胆管がんに対し、肝膵同時切除(HPD)も行っている

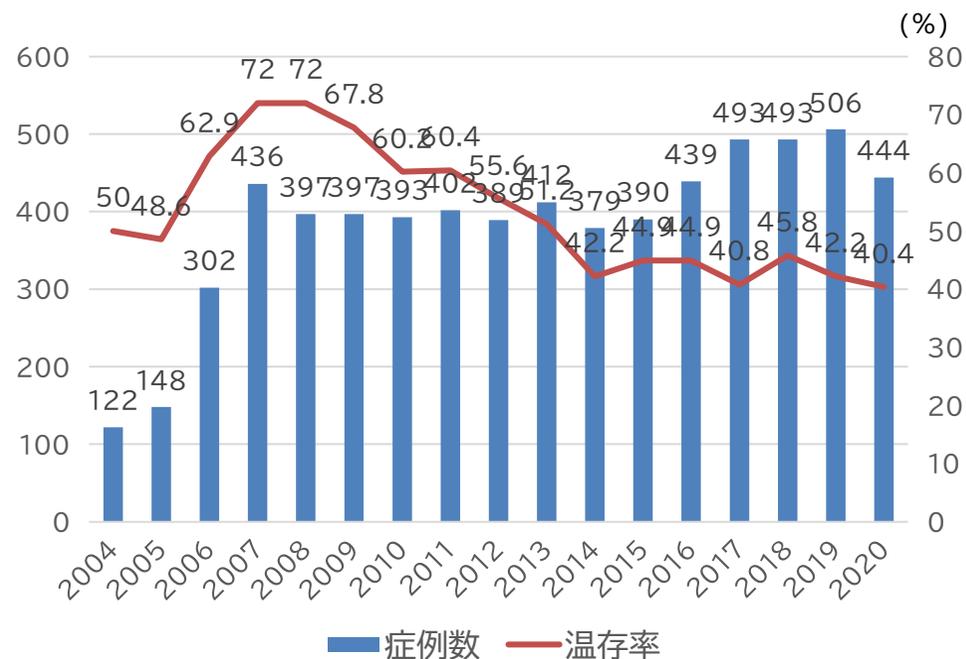
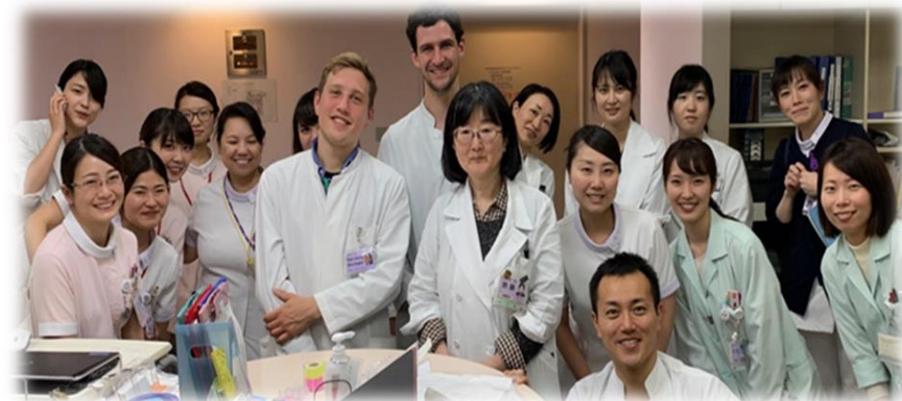


主な疾病/治療対象

- ◆ 乳腺悪性腫瘍(乳癌、葉状肉腫、血管肉腫など)
- ◆ 乳腺良性腫瘍(線維腺腫、葉状腫瘍など)
- ◆ 遺伝性乳癌卵巣がん症候群、乳腺炎など

診療科の特徴

- ◆ 乳がんにおいては局所療法(手術・放射線療法)や全身療法(薬物療法)をガイドラインに沿いながらも、個別性の高い患者さんのニーズに配慮
- ◆ 診断から治療まで、放射線診断医・治療医、病理医、形成外科医、看護師、放射線技師、超音波技師、薬剤師とチーム医療を実践
- ◆ 遺伝相談、妊娠期乳がん、生殖医療、乳房再建、再発治療、在宅ケア、家族ケア、支持・緩和ケアの提供も充実



乳癌手術年次推移(乳房切除/部分切除)

主な疾病/治療対象

- ◆ 全例で施行する心拍動下冠動脈バイパス手術
- ◆ 複雑逆流病変でも確実に可能な僧帽弁形成術
- ◆ 早期回復する大動脈弓部置換、ステントグラフト
- ◆ 先天性心疾患全般、末梢血管、静脈疾患
- ◆ 各種低侵襲小切開心臓手術



診療科の特徴

- ◆ 重症もNo Refusalで日本屈指の手術実績
- ◆ 翌日歩行と食事開始のFast Track Recovery
- ◆ 冠動脈バイパス手術ではパイオニアの実績があり、びまん性病変、低左室機能にも動脈グラフトオフポンプ手術を施行し、上皇陛下の手術を実施
- ◆ 大動脈弁狭窄症のハイリスク症例にはTAVI、スーチャーレス弁置換術を先駆的に導入
- ◆ 閉塞性肥大型心筋症に対する最新手術導入



2019年総手術件数

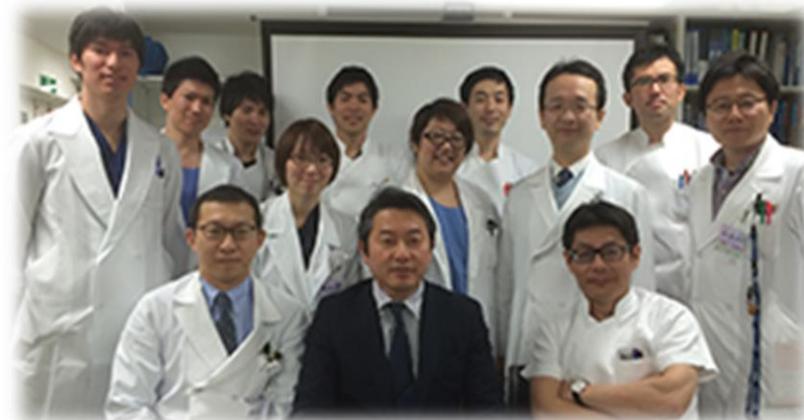
831例(小児126例、成人705例)

主な疾病/治療対象

- ◆ 原発性肺がん、転移性肺がん
- ◆ 良性肺腫瘍(過誤腫など)
- ◆ 縦隔腫瘍(胸腺腫、神経原性腫瘍など)
- ◆ 中皮腫など

診療科の特徴

- ◆ 手術件数が年間700例を超える国内有数の実績
- ◆ 肺癌・縦隔腫瘍に対しダ・ヴィンチ手術を施行
- ◆ 進行がんには徹底した拡大手術(気管支形成術など)
- ◆ 肺気腫・狭心症・糖尿病などのハイリスク症例にも対応



手術件数推移

主な疾病/治療対象

- ◆ 脳腫瘍(髄膜腫、神経膠腫など)
- ◆ 脳血管疾患(脳動脈瘤、脳動静脈奇形など)
- ◆ 神経機能外科(てんかん、不随意運動、正常圧水頭症など)
- ◆ 脊椎・脊髄外科(脊髄腫瘍、椎間板ヘルニアなど)
- ◆ 小児脳神経外科(小児脳腫瘍、先天奇形など)

診療科の特徴

- ◆ 日本脳神経外科学史上、最も伝統ある脳神経外科学教室の一つ
- ◆ 脳腫瘍、神経機能外科、脳血管内治療は、日本国内トップクラスの症例数
- ◆ 救急科、脳神経内科と共に脳卒中の24時間365日の救急対応、術中MRI装置などの高度先進医療機器を配備
- ◆ 小児脳神経外科は、腫瘍、てんかん、先天奇形まですべての分野に対応し、症例数も日本全国有数
- ◆ 脳神経内科と連携し、パーキンソン病に対し脳深部刺激療法を行っている



手術室内MRI装置

診療実績	2017年度	2018年度	2019年度
手術総数	940	975	981
脳腫瘍	231	242	236
脳血管障害(直達手術)	33	44	44
外傷	37	37	45
先天奇形	25	41	32
水頭症	89	71	78
てんかん	85	91	81
脊椎脊髄	44	39	75
Brain Stimulation	73	103	91
微小血管減圧術	18	17	13
血管内手術	278	260	266
その他	27	30	20

主な疾病/治療対象

- ◆ 変形性関節症
(膝関節・股関節・肩関節・足関節・手など)
- ◆ 脊椎疾患
(脊柱管狭窄症・椎間板ヘルニア・脊柱変形など)
- ◆ スポーツ外傷・障害
(肩関節・膝関節・足関節など)
- ◆ 骨軟部腫瘍
- ◆ 手の外傷、変形疾患
- ◆ 骨代謝性疾患(骨粗鬆症など)
- ◆ 関節リウマチ

診療科の特徴

- ◆ 当科の医師は各専門分野のスペシャリストである
- ◆ 現存するいかなる治療法にも、メリット、デメリット、そして限界があることを十分に理解している
- ◆ 全ての運動器疾患患者に最善の選択肢を提示し、安全・安心な最先端医療を提供し治療にあたっている



2019年の主な手術の実績

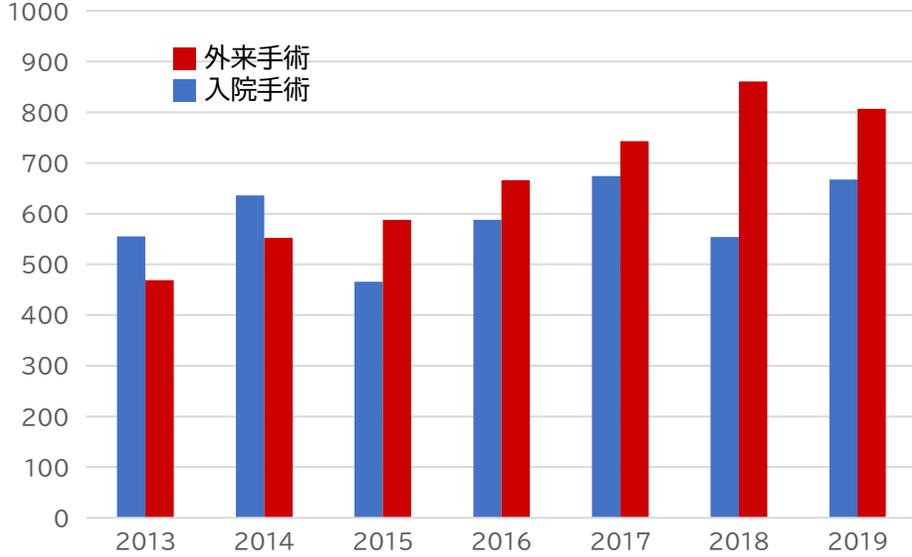
治療名	症例数
手・肘の手術	347
脊椎の手術	338
膝関節の手術	296
骨軟部腫瘍手術	287
股関節の手術	202
肩の手術	200

主な疾病/治療対象

- ◆ 小児先天異常
(口唇口蓋裂、多合指症、頭蓋骨早期癒合症など)
- ◆ 悪性腫瘍切除後の再建
(頭頸部再建、四肢再建、乳房再建など)
- ◆ 難治性潰瘍(下肢を中心に全身性)
- ◆ 顎顔面疾患(顔面神経麻痺など)
- ◆ 外傷性疾患(顔面骨骨折、四肢裂創など)
- ◆ 抗加齢医療(眼瞼下垂など)

診療科の特徴

- ◆ 全国有数の症例数の乳腺センターと連携し、患者ニーズにあった乳房再建が実施可能(自家組織再建/人工乳房再建/脂肪移植)
- ◆ 小児科・脳神経外科と連携し、頭蓋骨早期癒合症に対する頭蓋形成術や小児先天異常の患者に対応可能
- ◆ 耳鼻科・皮膚科・整形外科などと連携し、悪性腫瘍切除や切除後の再建を施行可能
- ◆ 再生医療を用いた下肢潰瘍治療が進行中



外来手術・入院手術件数 年次推移

主な疾病/治療対象

- ◆ 円形脱毛症
- ◆ 乾癬
- ◆ アトピー性皮膚炎
- ◆ 皮膚悪性腫瘍
- ◆ 自己免疫性水疱症など

診療科の特徴

- ◆ 入院治療では、円形脱毛症に対するステロイドセミパルス療法、天疱瘡や重症薬疹などに対する血漿交換療法とガンマグロブリン静注療法の併用療法、アトピー性皮膚炎などに対する紫外線療法、先天性表皮水疱症や難治性潰瘍に対して植皮術などを行っている
- ◆ 円形脱毛症に対して局所免疫療法、スーパーライザー照射、少量ステロイド内服、PUVA・NB-UVB、エキシマライトを組み合わせ治療

2019年外来診療実績

一日平均外来患者数	280名
初診患者数	2,785名
うち紹介状持参患者数	1,524名

2019年入院診療実績

退院患者数	309名
-------	------

2019年入院手術

皮膚良性腫瘍	84件
皮膚悪性腫瘍	65件
その他(膿皮症、皮膚移植など)	22件
合計	171件

主な疾病/治療対象

- ◆ 腎臓がん、膀胱がん、前立腺がん
- ◆ 前立腺肥大症・排尿障害
- ◆ 尿失禁・骨盤臓器脱
- ◆ 多発性嚢胞腎、結節性硬化症
- ◆ 腎移植

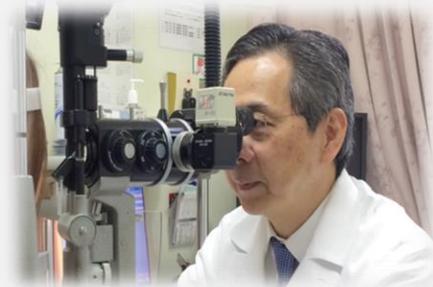
診療科の特徴

- ◆ 前立腺がん、腎臓がん、膀胱がんに対するロボット支援手術。手術件数は日本最多
- ◆ 治療が困難な進行がん治療にも取り組み
- ◆ 排尿障害、骨盤臓器脱に最新治療
- ◆ 難病である多発性嚢胞腎、結節性硬化症の薬物治療
- ◆ 血液型不適合症例も含めて腎移植を安全に施行



主な疾病/治療対象

- ◆ 近視、乱視
- ◆ 斜視、眼瞼下垂
- ◆ 白内障、緑内障
- ◆ 角膜移植
- ◆ 網膜剥離、網膜色素変性症
- ◆ 硝子体手術
- ◆ 炎症性眼疾患など



診療科の特徴

- ◆ 昭和38年に日本で最初に順天堂アイバンクが許可され、角膜移植手術は多くの症例を経験
- ◆ コンタクトレンズを日本で最初に導入し、現在コンタクトレンズ外来で特殊コンタクトレンズへの対応に力を入れている
- ◆ 大学病院において、日本唯一のスポーツ眼科専門外来を持つ
- ◆ 小児の先天性斜視は小児眼科外来、成人の場合は斜視専門外来で対応
- ◆ 近視や乱視について、PRKやLASIKによる屈折矯正手術も実施



2019年年間診療実績

入院手術 (12歳以上)	白内障	1,318件
	緑内障	192件
	角膜移植 (内 フェムトセカンドレーザー使用件数)	40件 (4件)
	網膜剥離	220件
	硝子体手術(剥離以外)	297件
	その他	65件
外来手術 (12歳以上)	斜視・眼瞼下垂等	144件
	日帰り白内障	140件
小児眼科手術 (12歳未満)	斜視、眼瞼下垂等	187件
	白内障、緑内障、網膜硝子体疾患等	84件
エキシマレーザー 手術	LASIK・PRK	0件
	PTK	56件
総手術件数		2,743件

主な疾病/治療対象(グループ)

- ◆ 耳の疾患(慢性中耳炎、中耳真珠腫、耳硬化症など)
- ◆ 鼻の疾患(慢性副鼻腔炎、好酸球性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など)
- ◆ 頭頸部疾患(口腔・喉頭・咽頭がん、唾液腺がん、甲状腺がん、副鼻腔がん、バセドウ病に対する外科的治療、頭頸部良性腫瘍など)
- ◆ その他(睡眠時無呼吸症候群、顔面神経麻痺、眩暈症、音声外来)



診療科の特徴

- ◆ 頭頸部がんに対する、手術、放射線、化学療法(抗PD-1抗体や動注療法)など集学的治療。機能温存治療
- ◆ 副鼻腔腫瘍に対する内視鏡下切除・頭蓋底手術
- ◆ 中咽頭がんに対する経口的ロボット手術などの低侵襲手術
- ◆ 耳硬化症に対する炭酸レーザーを用いたアブミ骨手術や難聴に対する原因遺伝子解析・人工内耳手術や骨固定型補聴器などの先進医療も実施
- ◆ 軽症アレルギー性鼻炎はアルゴンプラズマ凝固法による下鼻甲介粘膜焼灼術の日帰り手術

2019年主な手術実績

手術名	手術件数
鼓室形成術	50
乳突削開術	40
内視鏡下副鼻腔手術	135
鼻中隔矯正術	64
甲状腺半切・亜全摘・全摘	42
耳下腺腫瘍摘出術	52
中・下咽頭腫瘍切除術	47
頸部郭清術	140
リンパ節生検術	39

放射線科(診断部門)

- 当院のCT、MRIなどの画像診断機器を用いて各科から依頼のある画像診断検査を行う
- 外来では、医療連携などご紹介頂いた患者の画像検査及び読影の結果説明のほか、低侵襲外来も行っている

画像診断検査

- ◆ 検査計画を立て、質の高いレポートを各診療科に報告するまでを一貫して行っている
- ◆ 2019年度の主な検査実績は、CT:8万3,472例、MRI:4万7,050例、超音波:4,796例、核医学検査:6,129例、PET-CT検査:3,102例、血管造影検査:394例

低侵襲治療 (IVR Interventional Radiology)

- ◆ 腎血管筋脂肪腫に対する予防的腎動脈塞栓術、子宮筋腫に対する子宮動脈塞栓術、肝細胞がんや転移性肝がんに対する肝動脈化学塞栓術を多数施行
- ◆ その他、中心静脈用ポート留置術やマンモトームによる乳腺生検も実施。2017年度から腎腫瘍に対する凍結治療を実施



2019年度主なIVR別診療実績(合計 588例)

診療名	症例数
中心静脈用ポート留置術	117例
マンモトーム生検術	111例
CTガイド生検	50例
副腎静脈サンプリング	41例
肝動脈化学塞栓術	35例
子宮動脈塞栓術(筋腫・止血目的)	31例
抗がん剤等の動脈注入	30例

放射線科(治療部門)

主な疾病/治療対象

- ◆ 乳がん、前立腺がん、食道がん、肺がん、頭頸部がん、脳腫瘍、悪性リンパ腫などあらゆる悪性腫瘍、頭蓋内良性腫瘍
- ◆ ケロイド・甲状腺眼症など良性疾患

診療科の特徴

- ◆ がんの治癒やがんによる症状の改善を、形や機能を守ったままで行える
- ◆ 多くの患者さんは通院で治療できる
- ◆ 最先端の高精度放射線治療(強度変調放射線治療:IMRT、定位放射線治療、画像誘導放射線治療など)を行っている
- ◆ 前立腺がんの小線源永久刺入療法や子宮がん高線量率治療も実施している



2019年度 主な新規患者の 部位別放射線治療実績

部位名	症例数
乳腺	250例
泌尿器	155例
肺・縦隔	108例
消化器	106例
頭頸部	71例
造血器	41例
婦人科	36例
中枢神経	31例
骨軟部	5例
その他悪性腫瘍	10例
良性疾患	15例
総新規患者数	828例

2019年度 特殊治療実績

治療名	症例数
IMRT	233例
定位照射	47例
前立腺小線源療法	28例
RALS	26例
全身照射	8例

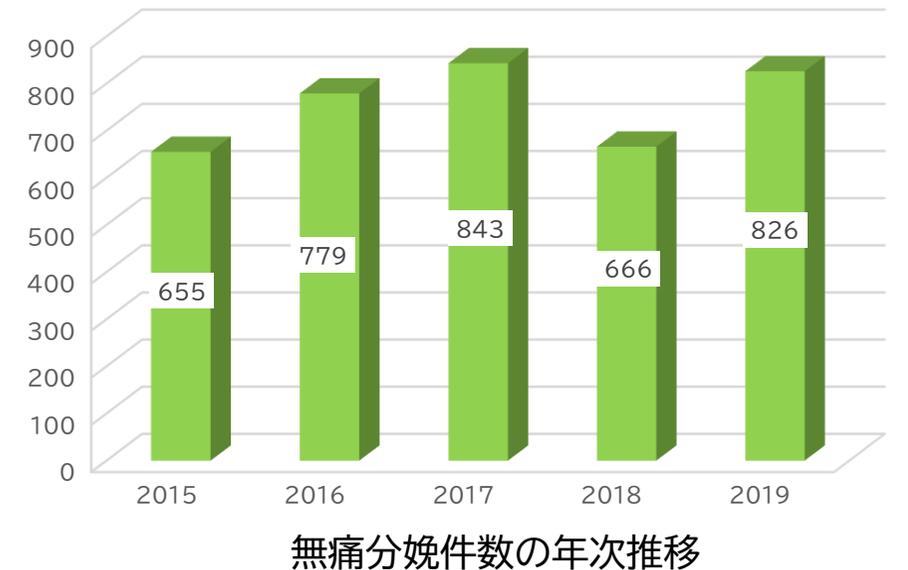
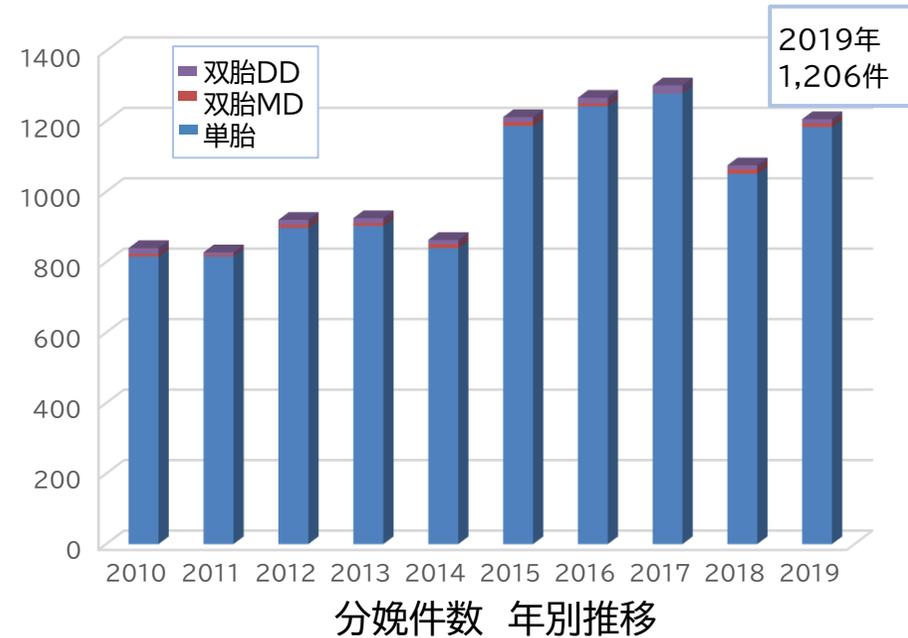
主な疾病/治療対象

- ◆ 正常妊娠
- ◆ 母体合併症のある妊娠、分娩
- ◆ 胎児異常の診断、管理
- ◆ 無痛分娩など



診療科の特徴

- ◆ 東京都指定の地域周産期医療センターに指定され、母体搬入の受入を積極的に行っている
- ◆ 麻酔科医と連携し、24時間体制で無痛分娩をサポート
- ◆ 無痛分娩の安全性に関する研究、産後うつへの介入、早産マーカーの研究、先天性疾患のヒトゲノムの解析などを行っている

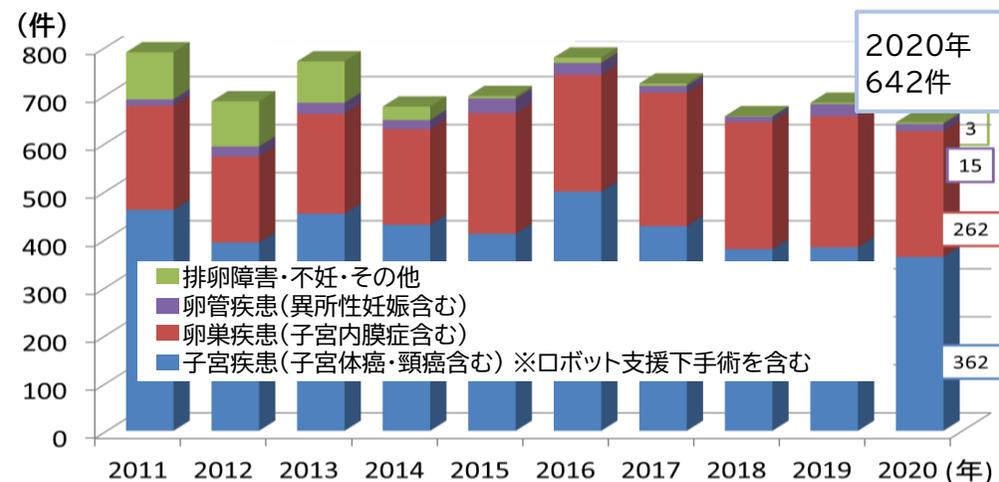


主な疾病/治療対象

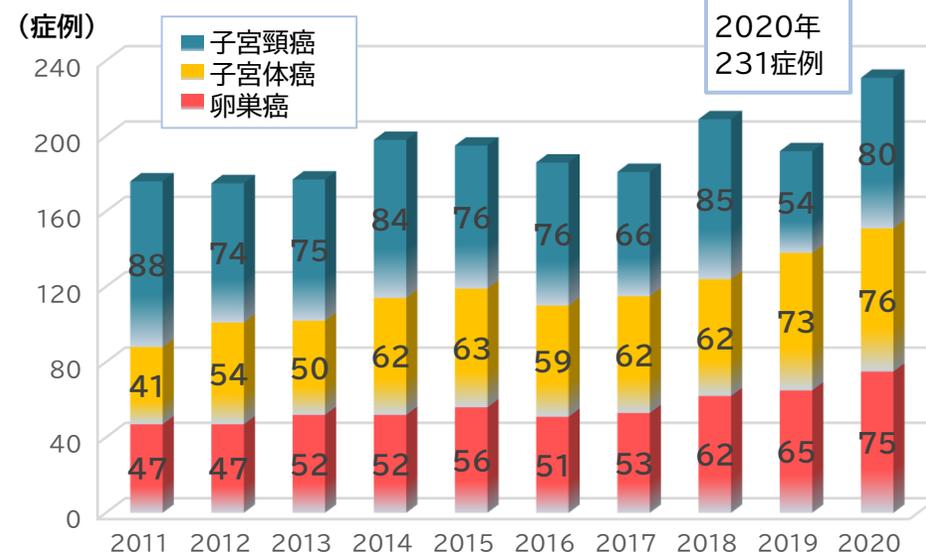
- ◆ 子宮筋腫、子宮腺筋症
- ◆ 子宮体癌、子宮頸がん
- ◆ 卵巣腫瘍(良性・悪性腫瘍)
- ◆ 更年期障害、女性アスリート外来
- ◆ 不妊治療

診療科の特徴

- ◆ 日本屈指の症例数を誇る腹腔鏡手術
- ◆ 婦人科良性疾患の85%は低侵襲治療を実施
- ◆ 良性疾患や悪性疾患(子宮体がん等)に対してはロボット支援下手術を実施
- ◆ 手術療法・化学療法・放射線療法を組み合わせた集学的治療



腹腔鏡下手術の診断別年次推移



悪性腫瘍症例数の年次推移(新規症例)

麻酔科・ペインクリニック(手術部門)

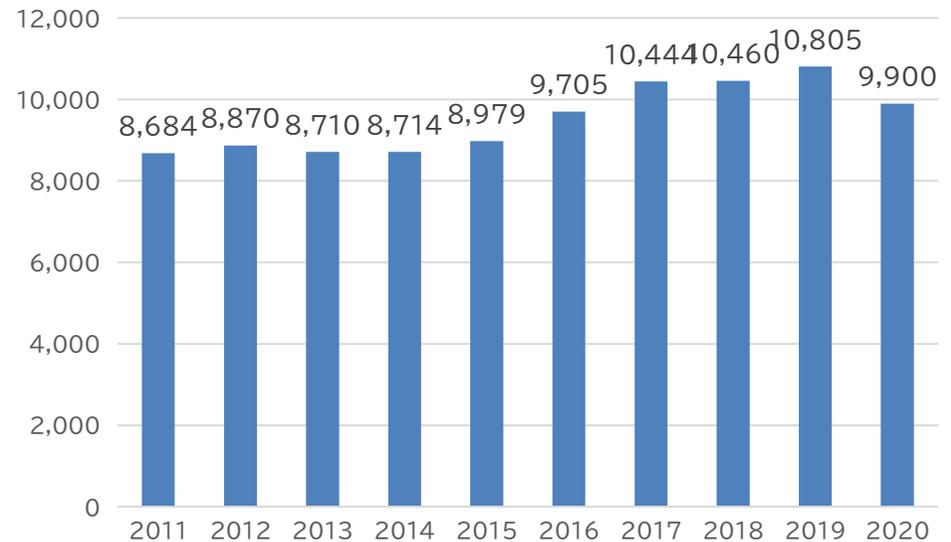
主な疾病/治療対象

- ◆ 手術前診察
- ◆ 手術麻酔管理
- ◆ 術後管理
- ◆ 集中治療室管理
- ◆ 産科麻酔(無痛分娩)



診療科の特徴

- ◆ 23部屋の手術室で麻酔の計画及び実施、術後の全身管理を通して患者の安全を守る
- ◆ 手術室併設の集中治療室において、心臓手術など大きな手術を終えた術後全身管理が必要な患者、また病院内で疾患が重症化した患者を対象とし、麻酔科を中心に各診療科や看護師・臨床工学士などのコメディカルと連携を取っている
- ◆ 24時間体制で産科麻酔チームが無痛分娩や帝王切開に対応



手術部門 麻酔管理症例数の推移

麻酔科・ペインクリニック(ペインクリニック部門)

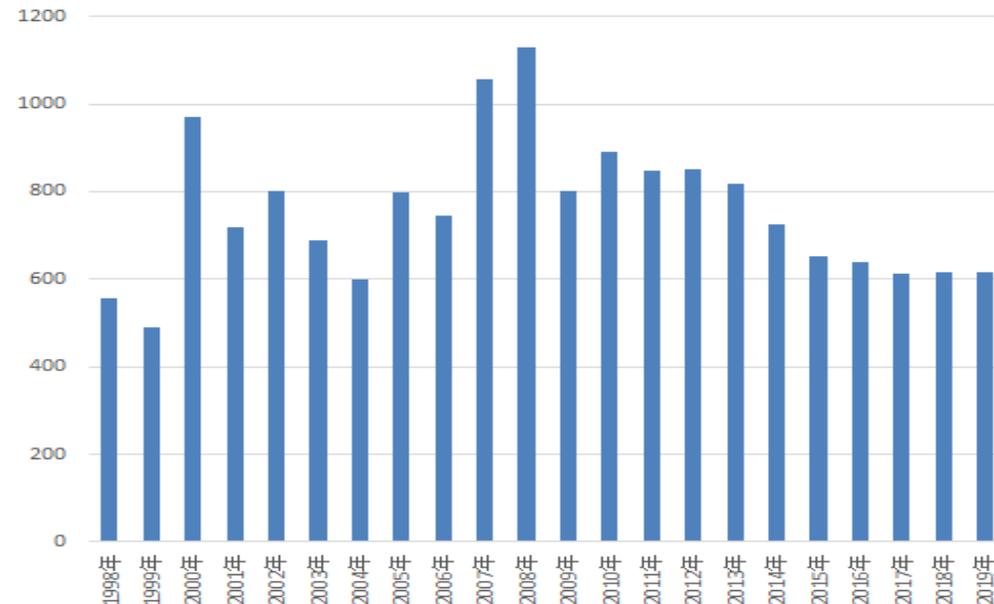
主な疾病/治療対象

- ◆ 頭痛、三叉神経痛、各種術後痛
- ◆ 帯状疱疹痛・帯状疱疹後神経痛や糖尿病性神経障害、血流障害による痛み
- ◆ 脊椎疾患
- ◆ 複合性局所疼痛症候群
- ◆ がん性疼痛など



診療科の特徴

- ◆ ペインクリニックでは低侵襲治療(神経ブロック、高周波熱凝固療法、脊髄刺激療法、硬膜外内視鏡)を行い、薬物療法と併用し、入院治療も可能
- ◆ 三叉神経痛、脊椎疾患、帯状疱疹痛、がん疼痛等の低侵襲治療の適応が高い疾患には、レントゲンや超音波エコーを使い、確実にできるだけ速やかな痛みの緩和を心がけている
- ◆ 入院治療として三叉神経痛に対するガッセル神経節熱凝固、難治性痛に対する脊髄刺激療法、腰椎術後の腰下肢痛などに対する硬膜外内視鏡を施行



ペインクリニック(痛みの治療)部門
初診患者数の推移

主な疾病/治療対象

- ◆ 運動麻痺・手足の痙縮
- ◆ 歩行障害
- ◆ 嚥下機能障害・高次脳機能障害

診療科の特徴

- ◆ リハビリテーション治療では運動療法だけではなく、電気刺激、経頭蓋磁気刺激などを用いて物理医学的治療を行っている
- ◆ 痙縮による運動障害ではボツリヌス治療を施行
- ◆ 失われた機能を代償する手段として、最先端のロボット工学や神経科学を応用したリハビリテーション医療機器を使い分け、最高の生活の質の獲得を目指す
- ◆ 脳卒中片麻痺患者の上肢機能を改善させるHANDS therapyを開発し、世界に向けて発信
- ◆ 世界に先駆けて非侵襲的に脊髄の歩行神経回路を刺激し機能回復を目指すFAST walkの開発



2019年処方数

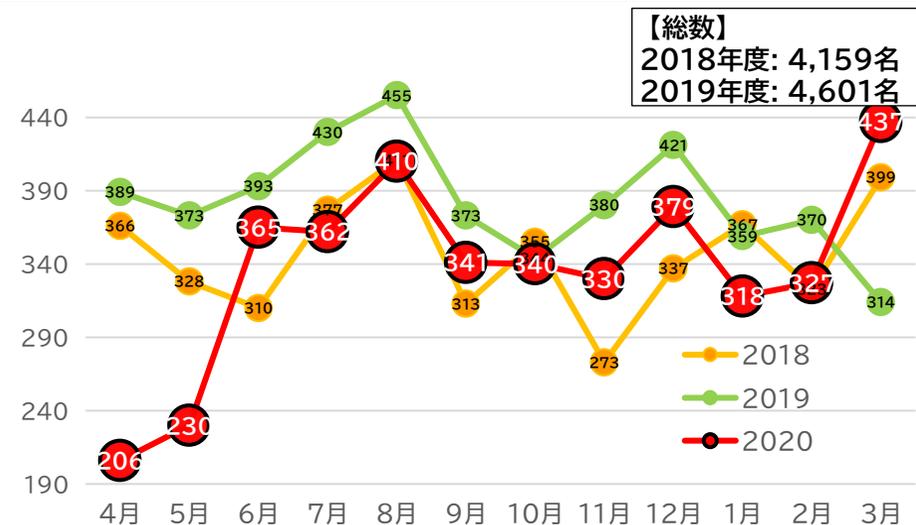
療法別処方数	理学療法	5,934
	作業療法	1,211
	言語聴覚療法	954
疾患別処方数	脳血管疾患等リハビリテーション	3,829
	運動器リハビリテーション	1,845
	呼吸器リハビリテーション	495
	心大血管リハビリテーション	1,086
	Cancerがん患者リハビリテーション	849
	廃用症候群リハビリテーション	30

主な疾病/治療対象

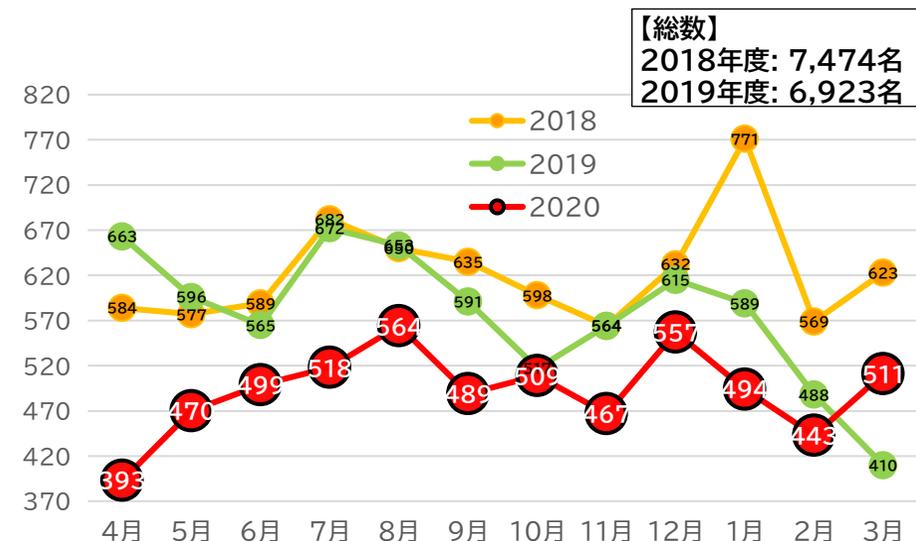
- ◆ 救急疾患
(心肺停止、外傷、中毒、ショック、敗血症、熱傷、熱中症、アナフィラキシーなど)
- ◆ 急性期医療
(意識障害、めまい、頭痛、発熱、動悸、胸痛、腹痛、吐き気、下痢など)

診療科の特徴

- ◆ 東京都指定二次救急医療機関として、地域の医療機関と連携・役割分担しながら積極的に患者の受入をしている
- ◆ 救急・災害医学研究室所属のスタッフと他科から出向専任医が所属
- ◆ 院内急変時対応コールへの対応、各診療科の入院患者が予期せぬ重症化の際の相談先として機能
- ◆ 各診療科の緊急入院患者の受入を主としたHCU(High Care Unit)の入退室調整



救急科受診者数の推移



救急車受け入れ台数

主な疾病/治療対象

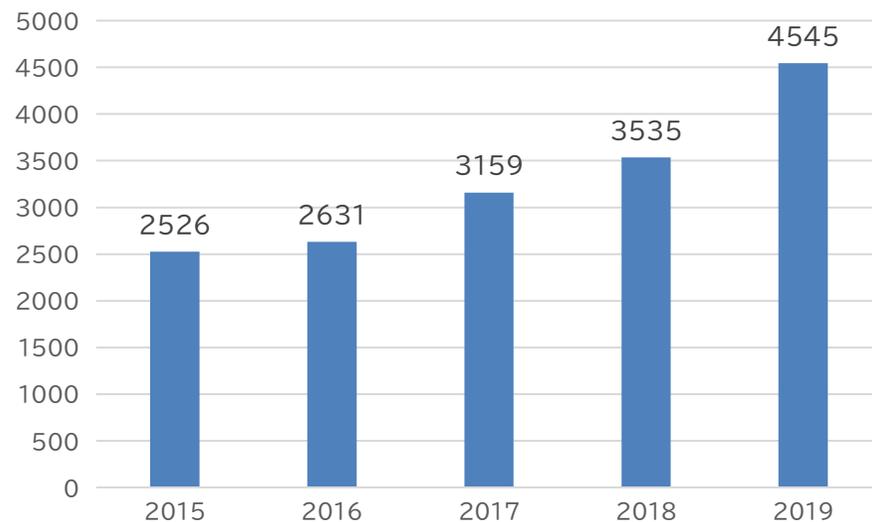
- ◆ 入院患者の一般歯科治療、観血的歯科治療
- ◆ 抜歯、嚢胞、腫瘍
- ◆ 顎関節症、顎骨骨折
- ◆ 口腔粘膜疾患、唾液腺疾患、炎症
- ◆ 周術期の口腔ケア
- ◆ 口腔インプラント
- ◆ 睡眠時無呼吸症



当科で作製している睡眠時
無呼吸症用の口腔内装置

診療科の特徴

- ◆ 入院中患者一般歯科診療の他、困難な抜歯や嚢胞、インプラント等の口腔外科手術を実施
- ◆ 専門外来はインプラント外来、顎関節症外来、睡眠時無呼吸症外来を開設
- ◆ インプラント治療においては高い成功率(98.8%)と良好な臨床成績を治めている。また睡眠時無呼吸症候群に関してはスリープスプリントを作製している



初診患者数

順天堂大学医学部附属順天堂医院

Juntendo University Hospital

順天堂大学医学部附属順天堂医院